

④ 財政運営の健全度と行政サービスの水準

1. 財政運営の健全度

本市の財政は、脆弱な財政基盤に立ちながらも、絶え間ない行財政改革への取組みなどの成果により、着実に健全化への道をたどってきました。その結果、健全な財政運営を示す義務的経費比率や経常収支比率などの各種指標は政令市(さいたま市を除く12市。以下同じ)の中でも上位の数値となっています。

(1) 義務的経費・投資的経費

● 義務的経費比率

● 投資的経費比率

37.7%
30.4%

(12政令市中順位)

昭和61年度→平成13年度
財政の自由度が高い方から

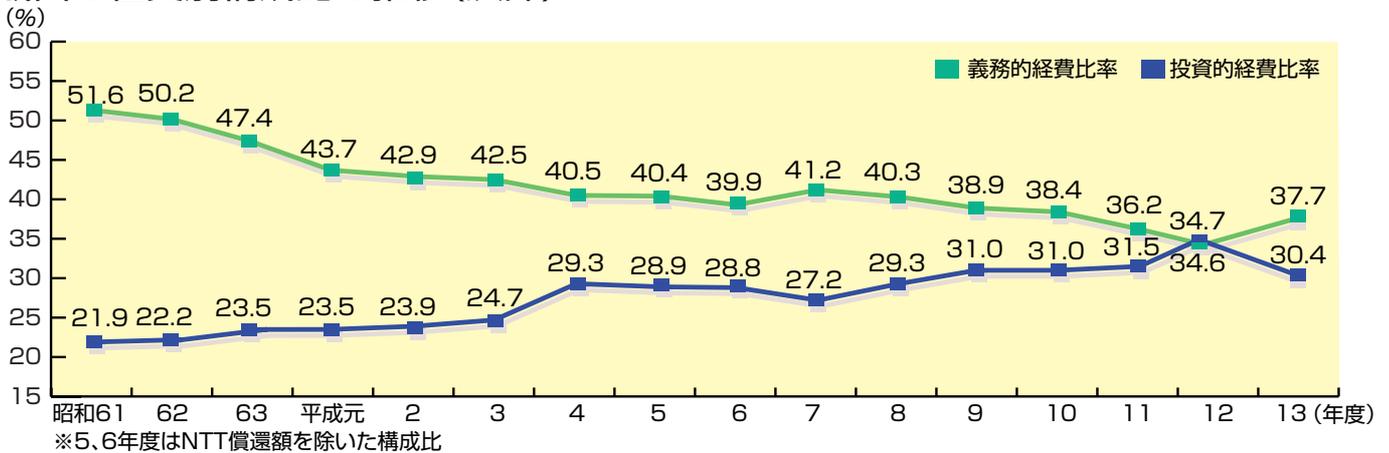
⇒ **最下位→第1位**

投資に回せる割合が高い方から

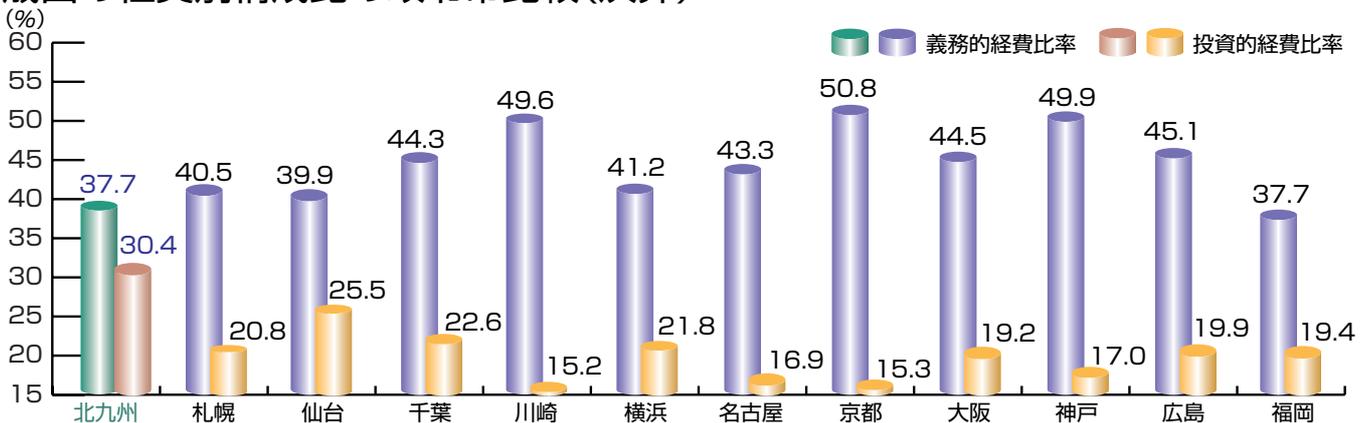
⇒ **第11位→第1位**

※平成13年度普通会計決算

歳出の性質別構成比の推移(決算)



歳出の性質別構成比の政令市比較(決算)



● 普通会計

例えば、北九州市の場合、大学関係経費は特別会計を設置し計上していますが、大阪市は、一般会計で計上しています。このように一般会計、特別会計等、各会計で経理する事業の範囲が自治体ごとに異なっているため、統一的な基準で整理し、比較できるようにした統計上の会計区分が普通会計です。一般会計と特別会計(公営企業会計等を除く)を合算し、会計間の重複額等を控除したものです。

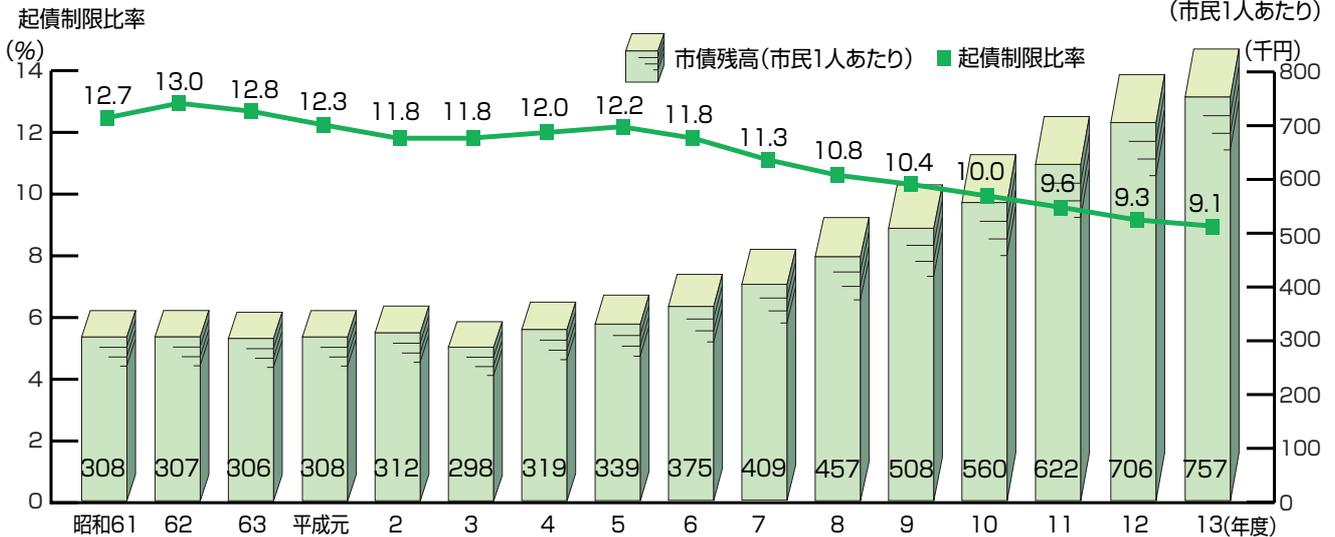
用語解説

(2)市債残高・起債制限比率

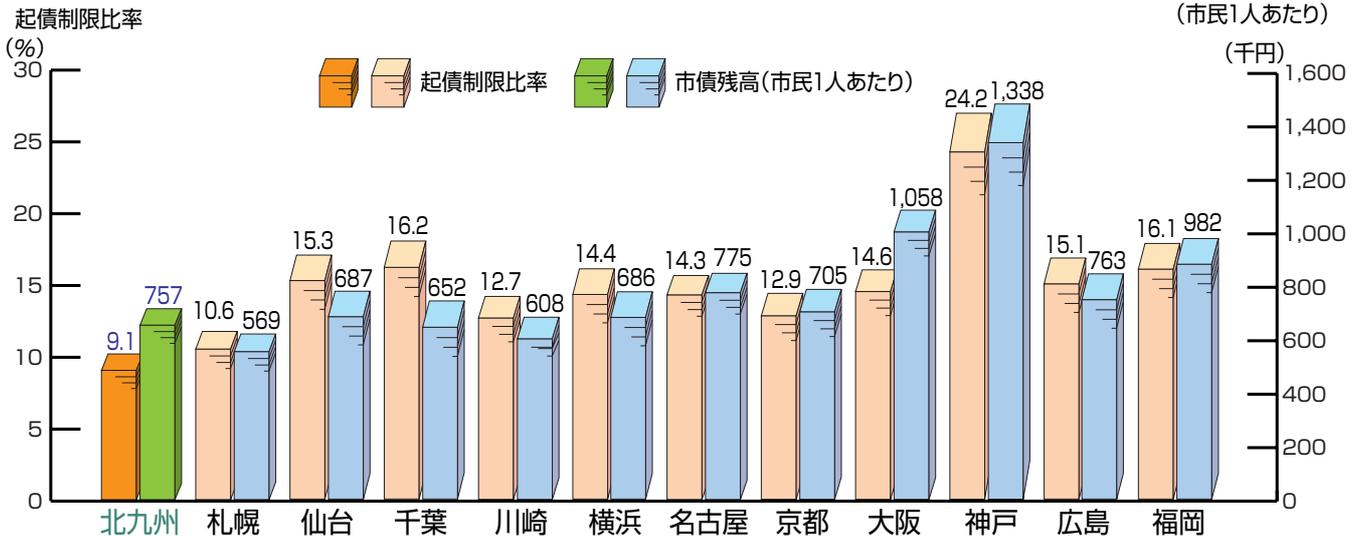
●市民1人あたり市債残高 **757**千円
 ●起債制限比率 **9.1**%

(12政令市中順位)
 昭和61年度→平成13年度
 少ない方から
 ⇒ **第9位→第7位**
 借金の返済に縛られる度合いが低い方から
 ⇒ **第11位→第1位**
 ※平成13年度普通会計決算

市債残高等の推移(決算)



市債残高等の政令市比較(決算)



用語解説

●義務的経費比率

法令あるいはその性質上支出が義務づけられている「人件費、扶助費（生活保護費、福祉施設の運営費など）、公債費」の歳出総額に占める割合のことで、この割合が高いほど、財政の硬直化が進んでいることを示しています。

●投資的経費比率

投資的経費（普通建設事業費など）の歳出総額に占める割合のことで、この割合により地方公共団体がどの程度の経費を将来へ向けたストック形成に充てているかを判断することができます。

●起債制限比率

市債の発行を制限する指標で、地方交付税による措置の状況を的確に反映させた一般財源に占める公債費の割合です。この比率が20%以上になると市債の発行が制限されます。

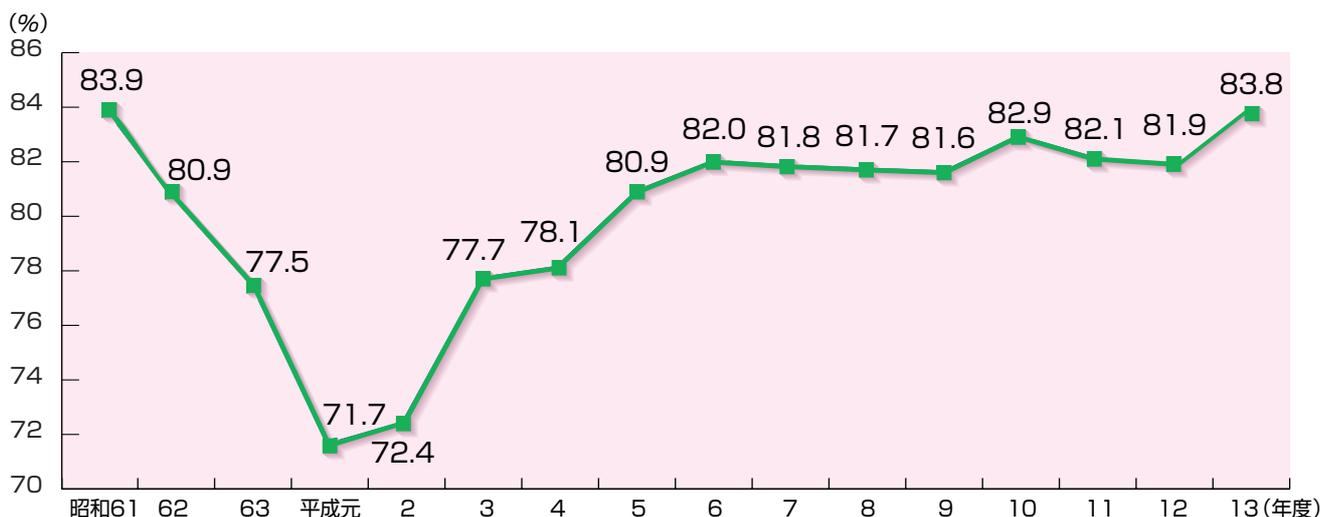
(3) 経常収支比率

● 経常収支比率

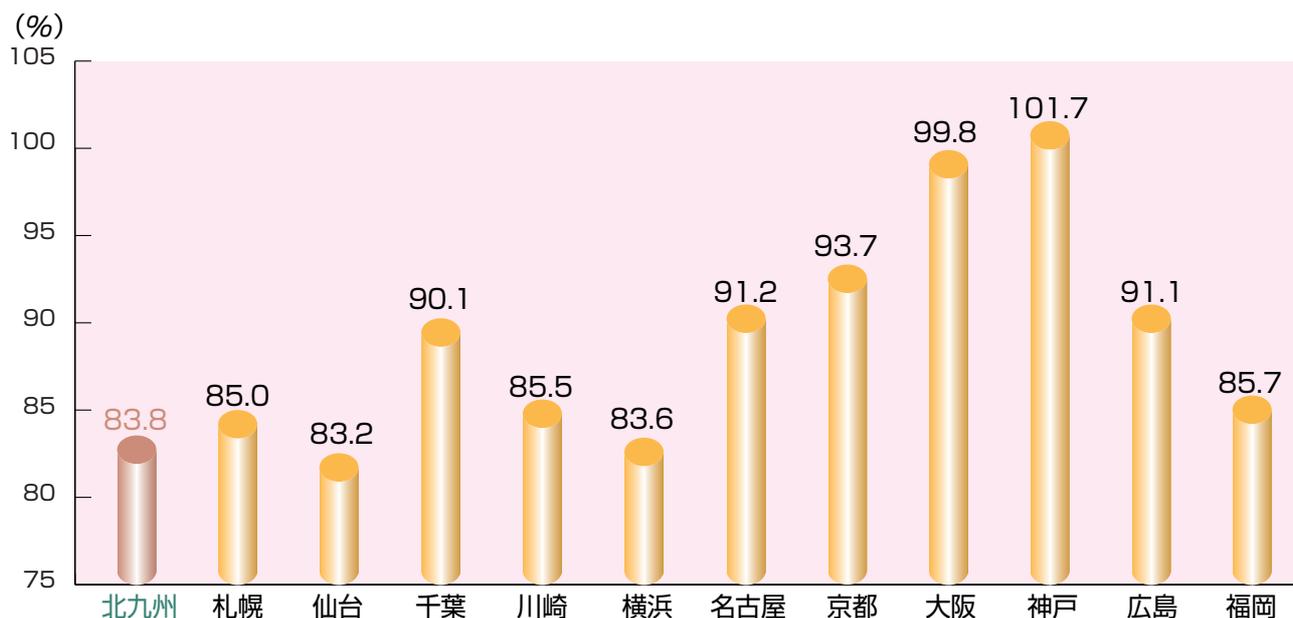
83.8%

(12政令市中順位)
 昭和61年度→平成13年度
 健全な方から
⇒ 第9位→第3位
 ※平成13年度普通会計決算

経常収支比率の推移（決算）



経常収支比率の政令市比較（決算）



用語解説

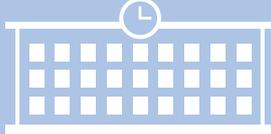
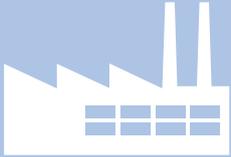
● 経常収支比率

自治体の財政にどれだけ自由に使えるお金があるのかを示す指標です。経常収支比率は、市税や地方交付税のように毎年度経常的に収入される一般財源（使い道の決められていない財源）が、人件費や公債費など経常的に支出される経費にどの程度充てられているかを示す指標で、この数値が高いほど、臨時の財政需要に充てる財源が少ないことを表しており、財政構造が弾力的でないこととされています。

2. 行政サービスの水準

北九州広域圏の中核都市として、JR小倉駅・黒崎駅周辺を中心とした都心・副都心の整備や「自然史・歴史博物館」、「ウェルとばた」など地域の中核となる大規模施設の整備を行うとともに、公営住宅や社会福祉施設など市民生活に身近な施設の整備に努めてきたことにより、公共施設などの整備水準は、他の政令市と比較しても充実したものとなっています。

【公共施設などの整備水準(平成13年度)の例】(12政令市中順位)

<p>●市立病院病床数 177.2床 (市民10万人あたり)</p> <p>第1位</p> 	<p>●心身障害児・者施設定員 202.7人 (市民10万人あたり)</p> <p>第2位</p> 	<p>●小学校校舎面積 12.6㎡ (児童1人あたり)</p> <p>●中学校校舎面積 14.1㎡ (生徒1人あたり)</p> <p>第2位</p> 
<p>●都市公園面積 10.1㎡ (市民1人あたり)</p> <p>第2位</p>  <p><small>※総務省公共施設状況調…市町村立都市公園面積</small></p>	<p>●市立図書館箇所数 1.68館 (市民10万人あたり)</p> <p>第1位</p> 	<p>●市全世帯に占める 市営住宅比率 7.7%</p> <p>第3位</p> 
<p>●道路延長 3.6m (市民1人あたり)</p> <p>第1位</p> 	<p>●ごみ焼却処理能力 6.63 t/日 (市民1万人あたり)</p> <p>第5位</p> 	<p>●上水道等給水能力 0.76 m³/日 (市民1人あたり)</p> <p>第3位</p> 

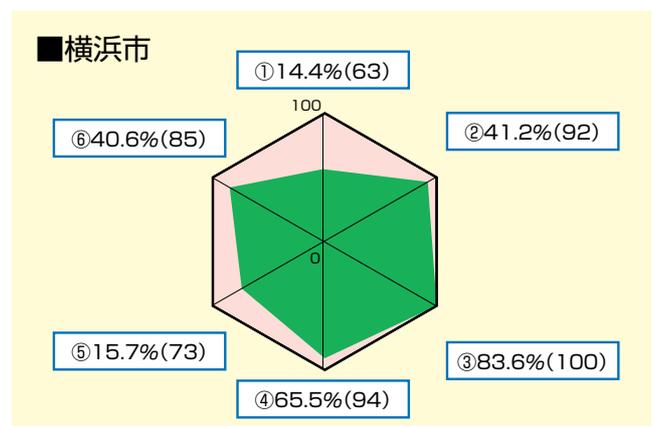
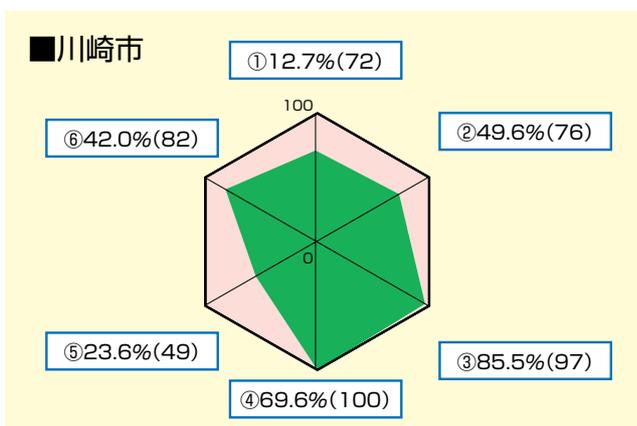
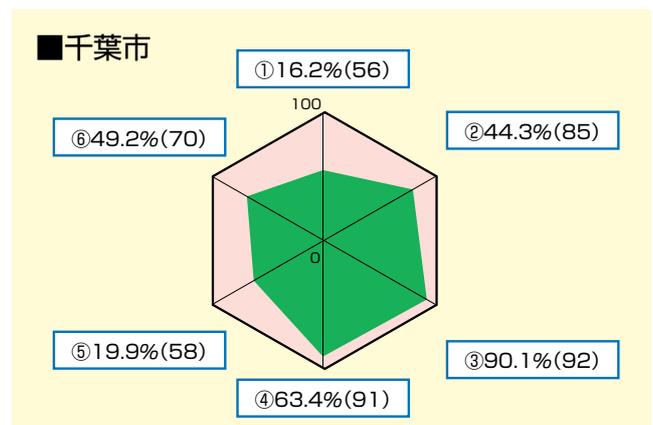
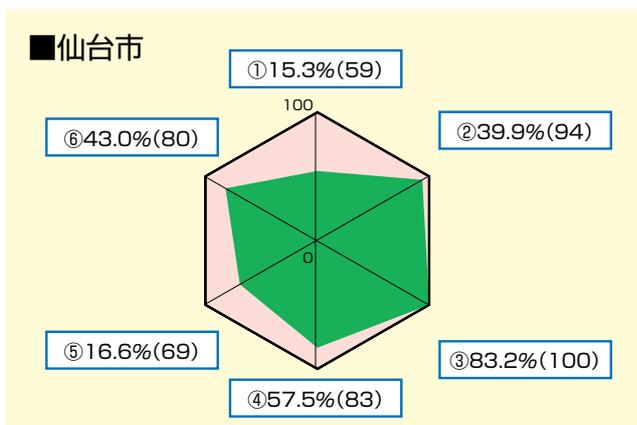
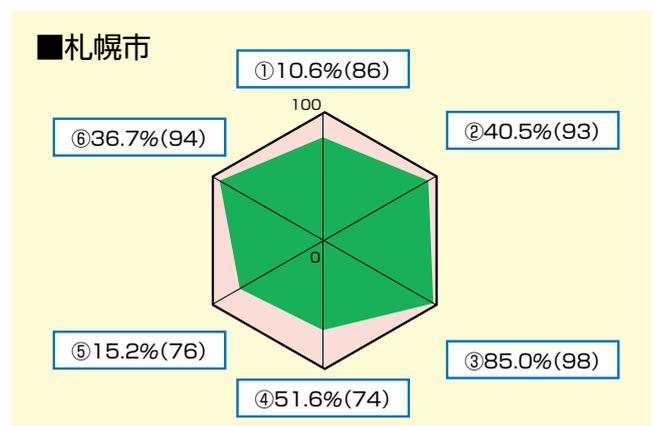
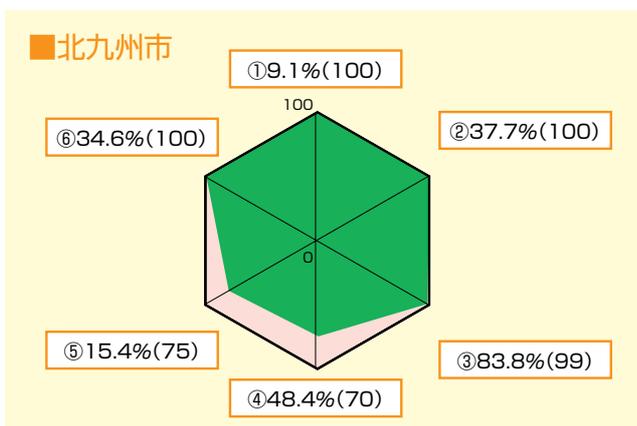
3. レーダーチャートを用いた財政状況の分析

これまで、財政運営の健全度や行政サービスの水準について、個々の指標ごとに政令市間の比較を行ってきましたが、複数の指標を総合的に捉えトータルとしての財政状況を比較することはありませんでした。

そこで、本書で紹介する財務指標等の中から、次の6つの指標を対象として、レーダーチャートを用い、各政令市の財政状況を総合的に比較してみました。

本市では、財政運営の弾力性や将来的な財政負担等の指標については、政令市でもトップクラスを維持しています。これは、行財政改革や適正な市債管理の推進など、健全な財政運営を維持するために行ってきた、歳出面における財政構造の改善に向けた取組みの成果が表れてきたものと考えられます。

一方、歳入面については、徴収対策の強化など歳入確保に向けた取組みを進めていますが、長引く景気の低迷や高齢化の進展等により、市税収入が減少するなど厳しい状況となっています。



■レーダーチャートの作成方法

政令市中最も良い値を100として各市数値を指数化した値により作成しています（平成13年度普通会計決算ベース）。

■対象とした財政指標

- ①起債制限比率（11頁参照） 市債の発行を制限するための指標。
- ②義務的経費比率（10頁参照） 財政構造の硬直性を判断するための指標。
- ③経常収支比率（12頁参照） 財政構造の弾力性を判断するための指標。
- ④自主財源比率（17頁参照） 財政基盤の安定性、行政活動の自立性を判断するための指標。
- ⑤人件費比率 人件費の歳出全体に占める割合を表す指標。
- ⑥負債資産比率（36頁参照） 資産に対する負債の程度を表す指標。

■レーダーチャートの見方

- ①レーダーの外側に行くほど財政運営の弾力性や将来的な財政負担等の状況が良いことを示しています。
- ②グラフの「丸数字」は上記「対象とした財政指標」の番号を表しています。
- ③数値は各市指標の値を、（ ）書きは各項目の最も良い値に対する各市指標の指数値を表しています。

